

中一 国語科通信

第4号
平成30年9月21日
国語科1年担当
奥池・狭間



「ダイコンすりおろし実験」

中学入学最初の教材は「ダイコンは大きな根？」でした。実はダイコンの白い部分は、胚軸と根という二つの器官に分かれていて、上部と下部とは味が違う、という話でしたね。そこで、じゃあ食べ比べをしてみよう、ということになったのです。

七月二十七日、一年生全員でいざすりおろし！ 上部をすりおろしたものと、下部をすりおろしたものを順に試食した後は、糖度計を使って糖度を計ってみました。予想通りの結果にはならなかった部分もありましたが、教科書に書いてあることを実際に試してみたのは、貴重な体験になったのではないのでしょうか。



百人一首大会 7月26日

20首近く覚えての大会。激戦を繰り広げました。



来んとする秋をせき止めるかのごとく
海辺にはためく「氷」の幟

お知らせ
入学時から約半年、一年を担当していた日高由里子先生が、育児休暇のためお休みをされることになりました。九月以降は、文理科一年所属の狭間が担当します。戸惑うこともあるかもしれませんが、これまでと変わらず、いろいろなことにチャレンジして、国語を楽しみましょう。

「オリズムマラソン 第四回 「スナオニマサルモノハナシ」 狭間 千穂

人と同じはずじゃない。だから、基本もそっちのけにして、「我が道」を歩こうとする。それでうまくいく場合もある。でも、大抵、肝心なところをつまづいてしまう。

漠然とした話からスタートしてしまいました。ずいぶん前の「情熱大陸」で、確か何かのアスリートの男性が言っていました。

「オリジナリティーを出すのは、基礎基本を身につけてから。まずは先人の言うことを素直に聞き、真似ることが大切。」

その言葉を聞いて、ああ、私の言いたいことはこれだ、と思いました。

先日最終回を迎えたドラマ「チア☆ダン」を見ていた人も多かったのでは？ 数回前の放送で、太郎先生が「学ぶことは真似ること」と言って生徒に寒がられてましたね。でもこれ、本当です。何を隠そう私も、新人の頃ずっと先輩の仕事の真似をしていて、「狭間は○○の真似ばかりしている」と陰口をたたかれたりもしました(ま、私の耳に届いている時点で「陰」口ではないですけどね)。でも今は、先輩の教えは大切にしながら、私に合う方法を身につけた、「完全オリジナル」の仕事をしています。あの基本があったからこそ「今」があります。

「学ぶ」とか「真似ぶ」の話をしてきましたが、実は先ほどのアスリートの言葉の中で一番心に響いたのは「素直に」というところ。何事においても、人間「素直」であることが一番だと思うのです。

新学期が始まりました。文化祭も終わり、次は何を目標にがんばりますか？